

令和5年産 美里地区の大豆情報



第4号 令和5年8月17日

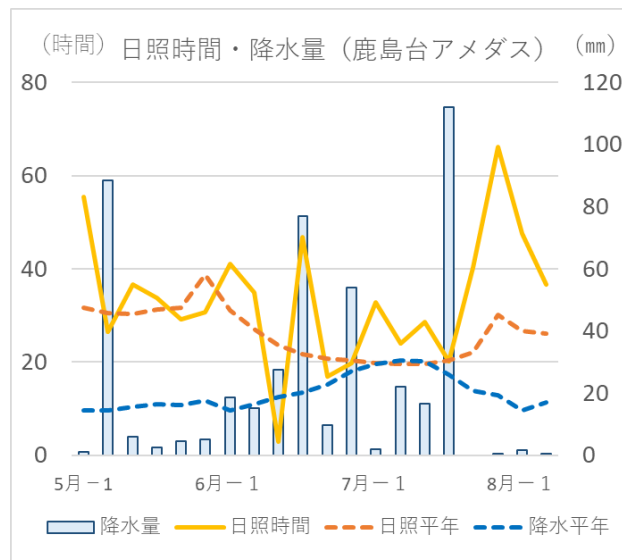
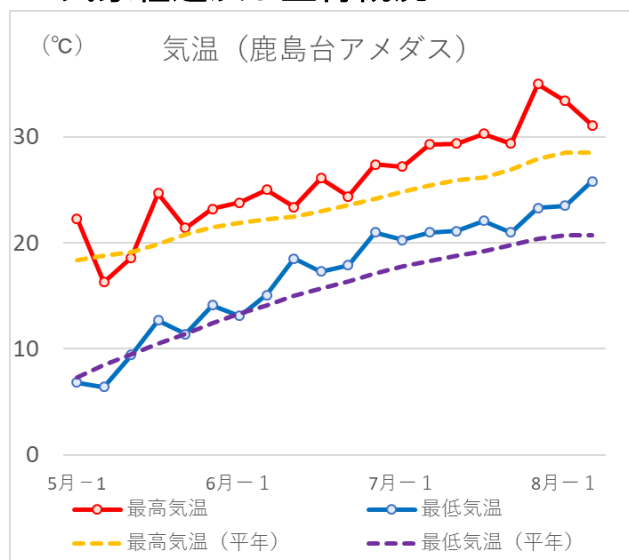
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育概況



- 生育期間を通じて高温傾向が続いています。
- 日照時間は梅雨明け後晴天日が多く、7月第5半旬～8月第2半旬で平年比182%となっています。
- 降水量については、7月下旬には10日間連続降雨無し（7月21日～30日）など極端な少雨傾向でしたが、8月12日に41.5mmの降水を観測しました。

生育調査結果（調査日：8月9日）

品種	調査地点	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
タチナガハ	涌谷町岸ヶ森	6月19日	57.6	12.6	1.5
	大崎市田尻大沢	5月31日	68.3	14.6	2.7
	大崎市鹿島台木間塚	5月31日	62.5	13.6	2.0
タンレイ	(参考：作況試験ほ調査結果)※	5月25日	98.0	17.5	5.1
ミヤギシロメ	涌谷町岸ヶ森	6月21日	54.2	9.0	1.4
	美里町青生	6月7日	73.3	12.8	2.8
	(参考：作況試験ほ調査結果)※	6月15日	109.0	17.3	2.8

※古川農業試験場が実施している令和5年度大豆作況試験の調査結果（8月10日実施）

- 標播のタチナガハのほ場では花おさまり、晩播のほ場では開花期を過ぎた頃となっています。
- ミヤギシロメについては作況ほど比較して主茎長は低く、主茎節数は少なく、分枝数は同程度となっており、晩播のタチナガハ同様、開花期を過ぎた頃となっています。生育量に応じて摘芯作業が行われたほ場（美里町の生育ほ）もあります。
- 一部のほ場ではオオタバコガやツメクサガなどによる葉の食害が確認されています。

2 今後の管理

(1) 湿害・干害対策 早急に排水対策を実施して、生育量を確保しましょう

- 大豆の子実が肥大する生育後期は湿害を受けやすい時期と言われており、根の吸収阻害や根粒菌の活性低下により減収につながります。急な雨に備えて、ほ場の排水機能を確認・改善しましょう。
- 梅雨明け後は晴天が続いており、干害が懸念されます。生育中期は開花までの生育量と比較して3～4倍の生育量となるため、養水分が多量に必要です。また開花期の乾燥は落花・落莢を増加させ、減収につながります。必要に応じて暗きよを閉じるなど、ほ場の水分保持に努めるほか、かん水が可能な場合は畝間に土壌水分がしみ出す程度に通水しましょう。

	5個体当たり落莢数(個)	1莢当たり粒数(個)	成熟期調査			子実重		百粒重(g)
			莖長(cm)	分枝数(本/本)	莢数(個/本)	a当たり(kg/a)	対比(%)	
開花10日前～開花	23	1.86	67.3	4.7	52.5	26.5	110	30.6
開花期～終花期	29	1.83	67.9	5.0	54.9	26.9	112	31.1
開花期～黄葉期	29	1.88	71.7	4.9	60.9	27.5	114	31.6
無処理	40	1.76	63.0	4.4	51.1	24.1	(100)	31.2

注) 品種：タンレイ、ほ場：農業センター転換畑(黒泥土強粘土型)

図 かん水時期別の生育および収量(農業センター、昭54～56)
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

(2) 病害虫対策 発生病害虫に合わせて、効果的に防除しましょう

- 県病害虫防除所の発生予察情報第8号(令和5年8月7日発行)によると、発生量「やや多」と推測されている病害虫もあることから、「ほ場条件」を確認し、どの病害虫を対象とすべきか整理しておく必要があります。

● ツメクサガ・オオタバコガ【発生量：やや多】

突発的に多発し葉や莢を食害します。発生密度は開花始期ごろにピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなる傾向にあります。フェロモントラップのオオタバコガ誘殺状況では目立った増加は見られませんが、ほ場の状況をよく観察し、散布時期を逸さないように作業を行いましょう。



タバコガ類 幼虫

● マメシンクイガ【発生量：やや少】

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため、発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

● 吸実性カメムシ類【発生量：やや多】

ホソヘリカメムシやアオクサカメムシなど数種が莢内の子実を加害します。莢が若いほど被害が大きいため、着莢期～子実肥大中期を重点に2回以上の防除を行いましょう。8月下旬～9月上旬に防除を行うことでマメシンクイガ等との同時防除が可能です。

● 紫斑病【発生量：平年並】

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が $18\pm 3^{\circ}\text{C}$ で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後20～40日に1～2回防除(同一剤を使用しない)しまししょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう！

<熱中症の予防法>

- 暑さをしのぐ服装(帽子の着用、通気性の良い衣類の着用)
- 水分補給(こまめな水分補給及び休憩、気温の高い時間を避けた作業)
- 熱中症になりにくい室内環境(ハウスや畜舎の換気、遮光や断熱材施工による温度上昇防止)

農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)

- 周辺環境や近隣住民の方々に配慮しましょう
- 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- 土壌くん蒸剤の取り扱いに注意しましょう
- 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう